

# 三岸節子〈短歌ポスト〉入選作品

(平成二十九年後期分)

選者 小塩卓哉(中部日本歌人会顧問)

## 〔優秀作〕

\*月夜の縞馬\*

月の下からまる縞をほどこき合う二頭の馬よ駆けてゆけ、さあ

愛知県清須市 林泰行

〔評〕この短歌ポストでも、人気のあるのがこの「月夜の縞馬」である。縞馬の模様を「ほどこき合う」と詠んだところがこの歌の歌の手柄であろう。睦み合うような縞馬からそのような着想を得たものと思われる。縞をほどこいたからには束縛がなくなり、さあ、駆けて行けというのが下句。この絵画の後のシーンを自由に想像する姿勢に惹かれるものがある。

\*その他\*

絵の中で私は父と話するまた来るからねこの美術館に

愛知県名古屋市 土屋真紀子

〔評〕三岸節子記念美術館と作者との繋がりを暗示する歌。父親は三岸節子のファンだったのでないだろうか。節子の絵のモチーフと、父の思い出には直接の関係はない。しかし優れた芸術作品は、このように父子の懐かしくも切ない情愛にまで深く関わるだけの求心力をもつものである。自分自身に言い聞かすような結句の「この美術館」がいかにも効いている。

\*静物\*

忘れてた夏の課題はリンゴむき家に帰ってひたすらむこう

一宮市立尾西第一中学校 渡邊佳音

〔評〕改めて言うまでもなく、静物画とは西洋画のジャンルの一つで、静止した自然物や人工物を対象とする。変哲のないオブジェにこそ画家の美的感性が表れるから好まれるジャンルなのだろう。絵の中のリンゴを見て、夏休みに親と約束したリンゴむきのお手伝いを思い出したという微笑ましい内容の歌。これもまた一つの中学生の美的感性であろう。

## 〔佳作〕

\*イル・サンルイの秋\*

遠き遠き人なのになぜ魅かれゆくあなたの思ひは色にあふれて

兵庫県川西市 黒木章子

\*ブルゴーニュにて\*

ぼうぼうと風吹き渡る草原でコクリコになり空を見上げる

三重県津市 笠原優子

\*小さな町(アンダルシア)\*

紅白のアンダルシアが目の前に息づいているたそがれどきに

岐阜県岐阜市 北川三千代

\*月夜の縞馬\*

しまうまよ月夜に光るしまもよう光をあびてきれいに光れ

愛知県名古屋市立藤が丘小学校 浅井慶太